

スーグラ[®]錠を服薬される 1型糖尿病患者さんへ

RMP

監修：川崎医科大学 名誉教授 川崎医科大学付属総合医療センター 特任部長 加来 浩平 先生
大阪医科薬科大学 内科学I 教授 今川 彰久 先生

(ご所属・役職名等は2023年8月時点のものです)

■ スーグラ[®]錠を服薬する際の注意点

スーグラ[®]錠はインスリン製剤に代わるものではありません。インスリン製剤を中止しないでください。

■ スーグラ[®]錠を服薬中に体調を崩した際の注意点

発熱や感染症、下痢、嘔吐、ストレスなどにより体調を崩したとき、外傷のあるとき、食欲不振のため食事をとれないときは下記の対応をしてください。

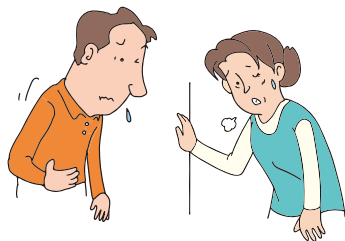
対応の原則

- ① 医師に連絡し指示を受ける
- ② インスリン製剤を**中止しない**
- ③ スーグラ[®]錠を**中止する**
- ④ 十分に水分補給し、脱水を防ぐ
- ⑤ 口あたりがよく消化のよい糖質を含む食物をできるだけとる(絶食しない)
- ⑥ 安静にし、温かくする

■ ケトアシドーシスにご注意ください。

このような症状を感じたら、すぐに医師に相談してください。

- 吐き気・嘔吐
- 食欲減退
- 腹痛
- 異常な口の渇き
- 体の疲労感
- 呼吸困難
- 意識がもうろうとする



注) 高血糖がみられないケトアシドーシスがあることにも注意が必要です。

血糖値だけで判断せず、測定が可能な場合はただちに血中または尿中ケトン体を測定してください。(正確な診断には血中ケトン体測定が必要です)

▶ 以下のような場合にケトアシドーシスになりやすいのでご注意ください。

- **インスリン製剤を投与できなかった**
- **インスリンポンプの不具合等によりインスリンが注入されなかった**
- 短期間でインスリンを大幅に減量した
- 厳しい糖質制限を行っている
- 体調不良などで食事をとれない状態が続いている
- 感染症を起こしている
- 脱水を起こしている
- 激しい運動をした
- アルコールを多飲している

注) インスリンポンプに不具合が生じた際に対応できるように、インスリン製剤を携帯するなどの事前対策が重要です。

注) ポンプ使用者は、吐き気・腹痛などの症状がある場合は、血糖値が高くなくてもポンプトラブルの有無を確認してください。